

日本民家園だより

特集 暑さ寒さと暮らし

vol.93

バカもん！先人の
知恵がつまった
名建築ばかりじゃ

みんなえんって
なんか古い家
ばかりだよね～

みんなつぱ棟梁

こみんなつぱ

企画展「暑さ寒さも彼岸までー民家と四季ー」
2020年10月1日(木)～2021年5月30日(日)

山形県鶴岡市
菅原さんちの
雪の日も安心「アマヤ」



雪に濡れたものを脱いだり、風や雪が室内に吹き込むのを防いだりする小部屋です。

「雪に弱い土壁でなく板壁にした外壁は、雪国の家によく見られるぞ」

岩手県紫波町
工藤さんちの
寒い季節も馬と一緒に「曲屋」



岩手県によく見られる民家の形式。主屋と馬小屋が一体となった「L」字形の建物です。

「囲炉裏で暖められた空気が馬小屋に流れて大切な馬を冬の寒さから守ったのじゃ」

神奈川県川崎市
伊藤さんちの
風通し抜群「竹すのこ床」



竹すのこ状にして張った床です。

「竹すのこ床の下を風が吹き抜けて、夏は涼しいね〜」

富山県南砺市
野原さんちの
雪に負けない「太い梁」



雪の重みに耐えるため、梁や柱には太くて頑丈な部材が使われています。

「中央の太い牛梁に、根元の曲がった木でできたチョウナ梁をかけておるぞ」

富山県南砺市
山田さんちの
冬よどんどこい「雪囲い」



雪の圧力で家が壊れないよう壁全面に茅束を取り付けて家を守る冬の備えです。

「まるで家がコートを着ているようだね」

*展示期間 (例年11月下旬〜翌3月初旬)

神奈川県川崎市
原さんちの
目にも涼しげ「夏座敷」



ふすまや障子戸を簾戸や葎簾障子などの風通しのよい建具に取り替えました。

「簾戸や葎簾障子には、アシという植物の細かい茎を紐で編んでつくった簾をはめ込んでおるぞ」

*展示期間 (例年6月初旬〜9月初旬)



山梨県甲州市
広瀬さんちの
冬にあったか「土座床」



土間にもみからを敷き詰めてわらで押さえ、その上にもしるを敷きのべた床です。

「寒い地域では、板の間より土座床の方があたたかく過ごせたんだって」

でえくのひ孫なんだから
しっかり見るんじゃ



うん!

さがしてみよう
暑さ寒さに合せた住まいのくふう

暑さや寒さとともに暮らす

日本の夏は湿度が高く蒸し暑いことが特徴です。エアコンが普及するまでは、室内の風通しを良くしたり、薄い生地の衣服を着たり、氷や水を使って冷やしたりするなどの方法で暑さをしのいできました。また、昔の民家は屋根の軒の出が深く、高い位置から照りつける熱い夏の日差しを遮ることができました。ほかに、蒸し暑い6月から9月頃までは、^{すだれ} 簾や^{よしず} 葦簀障子など夏仕様の建具を使った「夏座敷」にすることで、日光を遮りながら室内の風通しを良くしていたのです。

一方、冬の民家ではすきま風に悩まされました。囲炉裏や火鉢、こたつなどが使われていましたが、エアコンやストーブのように部屋全体を暖めるほどの力はなく、ほかにカイロや湯たんぽなどの小さな暖房具を使ったり、重ね着や綿の入った着物を着たりして暖をとりました。空間を暖めるというよりも、一人一人が温かいかっこうをし、手元で暖房具を使うことで身体を温めていたのです。

特に雪が多く降る地域の民家は、雪の重みで家が壊れないよう柱や梁などの骨組が太くどっしりとしているほか、雪が家に入り込まないように開口部を少なくし、雪に弱い土壁ではなく板壁にする傾向があります。寒い地域では、^{まがりや} 曲屋のように家畜を飼育する部屋と^{おもや} 主屋をL字型に一体化させた独特のつくりもみられました。

このように、夏と冬という正反対の季節それぞれに合わせた道具や民家のつくりを編み出すことで、私たちは暑さや寒さとともに暮らしてきたのです。(玉井里奈、松村千晶)



囲炉裏と薪ストーブ(昭和40(1965)年、大岡實氏撮影、一部トリミング)
山田家では、二か所ある囲炉裏の片方に薪ストーブを置き、もう片方はこたつとして使っていました。



羽織
(男物の単衣、絹製)
夏の着物です。布目にすき間をあけた「紹」という織り方で、透明感と通気性があります。



ワダイレアワセ
(使用地:山形県鶴岡市松沢、女物の袷
表:絹製、裏:木綿製)
冬の着物です。表地の布と裏地の布の間に綿が入っています。

日本民家園だより vol.93

発行:令和2(2020)年10月1日

川崎市立日本民家園 URL <https://www.nihonminkaen.jp/>

〒214-0032 川崎市多摩区枳形7-1-1 TEL 044(922)2181 FAX 044(934)8652

交通 小田急線「向ヶ丘遊園」駅下車南口より徒歩13分

開園時間 [3月~10月]9時30分~17時 [11月~2月]9時30分~16時30分(入園は開園30分前まで)

休園日 毎週月曜日(祝日の場合は開園)、祝日の翌日(土日・祝日の場合は開園)、12月28日~1月4日 ※その他臨時休園あり

入園料 一般500円、高校・大学生300円(要学生証)、65歳以上300円(川崎市在住の方無料、要証明書)、中学生以下無料

